

コロナ禍における情報収集

－ 進学選択に向けて －

進学情報センター 青木 優・永井 久美子

この記事を書いている2021年3月中旬の時点でコロナ禍の状況であることに、少なくとも首都圏に在住している人たちにとって異論をはさむ余地はないだろう。東京大学教養学部、駒場キャンパスにおいてもそれは当てはまる。この記事は今眺めている新一年生は、合格発表を本郷キャンパス内の掲示で堪能することなく、インターネットサイトで確認したはずだ。在校生が駆けつけてくれることも周囲を取り囲み、胴上げしてくれることもなく、風物詩が一つ奪われた気持ちもあるかもしれない。そして新二年生は、この1年間まさにコロナ禍に翻弄された大学生活を過ごすことになった。未だ雌伏の時を過ごしている人もいるのではないか。

一方で東京大学は、今の日本の大学ではユニークとあってよい特徴のある学びのシステムを提供している。リベラル・アーツ教育を旨とする教養学部前期課程の存在や後期課程への進学を決めるための「進学選択」制度はその最たるものだ。特に進学選択は、全ての進学先（学部学科）が全ての東大入学生に門戸を開いている仕組みだ。ただしこの進学選択の「自由」はときに「不安」を生み出すことにもなり得る。特にこのコロナ禍においては、キャンパスに行くことが制限され、アナログベースの情報入手する機会が極端に減っている学生も多いだろう。だからといって手をこまねいているわけにもいきまい。今までと同様、もしくはそれ以上に情報収集はできるので、その方法を紹介したいと思う。

まず強調したいことは、「情報源は一次資料(primary source)を最優先」とすることである。コロナ禍では、社会の物理的な距離が遠くなるにつれ、コミュニケーションや情報収集の手段として、インターネット世界に頼る比重が高くなっている。ネットツールを用いる場合、容易に多量の情報が得られ効率が良いと思いがちだが、玉石混交なものを適宜選り分けなければならない。これは面倒な作業で、かつ紛れの存在を許容しなければならない。時には

「誤ったデータ」や「風評や印象」を判断材料にしてしまい、方向性を間違える危険性をはらんでいる。これは進学選択という大事な決断をする際には避けなければならない。解決する最も有効な手段は、ITの世界であろうとも「正確、かつ有用な情報は一次のもの」と認識すること、すなわち東京大学から提供される情報を優先することだ。一つ一つ例示していこう。

・履修の手引き；

前期課程の履修や進学選択における契約書のようなものである。履修方法や手続き、成績の評価方法など、ほぼ全てが重要な情報といってよい。複雑なシステムと感ずるかもしれないが、是非きちんと把握してもらいたい。

そしてこの手引きの後半部分には、進学選択に関する情報が記載されている。学修成績の計算方法(基本平均点とよばれている)などは気になるだろうが、別表にも予め目を向けておこう。広く門戸が開かれているとはいっても「要求科目」というハードルが課されている場合がある。例えば文科の入学生が後期課程で理学部数学科に進学したいと考えても、前期課程修了要件以外の指定科目(数学だけでなく物理や化学も)を単位取得しないと進学選択に参加すらできない。「要望科目」は、必須ではないが進学先のカリキュラムをスムーズにこなすのに大事だ、というメッセージと捉えてよいだろう。指定平均点や重率・履修点の設定、面接・志望理由書も含めた多様な評価尺度を採用する学部・学科があることにあらかじめ留意して履修計画をたてよう。

・学務システム UTAS；

東大全学生にとって非常に重要かつ有用なシステムだ。履修登録や休講等の確認、成績の確認など、学務に関わるほぼすべてのことをUTASを通して行うことになる。また、進学選択における志望登録などもここで行う。進学選択で使用する成績(平均点)は2Sセメスター/2S2タームで確定するが、志望登録集計による自身の順位情報も確認できる。教務課前期課程のサイトを併用すれば自身の立ち位置を把握することができる。

UTASには進学選択の参考になるおすすめの機能がいくつかある。一つはシラバス検索、これは前期課程だけでなく後期課程以降の科目情報も学生が閲覧

できる仕組みだ。興味ある学部学科がどのような学びを提供しているか調べてみるとよいだろう。授業カタログも同様の機能はあるが、現時点では情報漏洩防止のため更新が滞っているので適宜併用して欲しい。もう一つは、当該年度の第一段階志望者の点数分布である。自身の順位情報と併せて活用し、志望登録や変更の参考にして欲しい。

・教務課前期課程のウェブサイト；

我々が学生だった頃は「鬼の教務課」と呼ばれていたものだが、今は学生支援課と同様「仏」と思ってよい。コロナ禍において教員一同どんなにお世話になったことか、この場を借りて感謝申し上げたい。さて、教務課職員のたゆまぬ努力により、ウェブサイトもどんどん充実してきている。学務システムなどへのリンクはもちろんのこと、下部にあるお知らせも、アイコンが学年・カテゴリー別になっているので、知りたい情報に容易にアクセスできる。「進学選択に関する情報」に移動すると、下部には参考になる情報にたどり着くためのリンクが張り巡らされ、進学選択に関するFAQが掲載され・・・と至れり尽くせりだ。例えば、1A Semesterまでの成績しか確定していない2年4月の時期でも、記載の計算例に倣えば、基本平均点や指定平均点を見積もることができる。自身の立ち位置確認や履修計画にぜひ活用してもらいたい。

・学部（学科）からの発信、講義やウェブサイト、

学部ガイダンス；

進路を選択するには、相手（学部学科）がどのような性格（特徴）を有し、学びを提供し、自分との相性は如何か（興味・適性があるか）、ということを理解することが肝だ。その手段の一つとして講義が挙げられる。前期課程教育は全学教員の協力を得て成り立っており、特に展開科目、総合科目、主題科目などはあらゆる学部・附置研究所などの教員が専門性を有した授業を披露している。これを活用しない手はない。また、前述「進学選択に関する情報」のサイトからリンクされている、前期学生を対象とした各学部の紹介サイトは情報の宝庫である。何しろこのコロナ禍において、面と向かって宣伝する場が限られている今、「如何に多くの学生が自身の学部に興味を持つか」ということを追求して作成しているからである。コンテンツは、多くの学生が

アクセスする学部ガイダンスの案内のみにとどまらない。教育カリキュラムや研究内容、教員主催の研究室ウェブサイトへのリンクなど多岐にわたっており、これを閲覧してみれば、それぞれの場所で広範かつ深淵なる学究の世界が展開されていることを垣間見ることができるだろう。学部スタッフの熱意をこれらのサイトで感じ取り、志望の判断材料にしよう。

・進学情報センター；

情報を自ら入手しても、迷いが生じることもあるだろう。悩みを少しでも和らげる手段として当センターを活用していただければと思う。利用方法は表紙でも紹介しているが、ウェブサイトではニュース記事のバックナンバーなど様々な情報を掲載しているので活用して頂ければ幸いだ。

今まで挙げた以外の情報も参考になることはある。毎年4月に開催する「進学選択シンポジウム」は、各学部から推薦された講師の方々が進路を決める際の体験談などを講演される機会だ。多くの在学生在が参加し、好評を博している。サークルなど校外活動をしていれば、先輩・同輩たちからいろいろな体験を聞けるだろう。また、学生有志が発行する各種出版物は、我々も取材を受けることがあり、興味を持って拝見している。このような情報に接する際に注意することは、適度な参考にはなるが、鵜呑みにしてはいけないということだ。二次的な情報は、しばしばその伝え手の「主観」が入る。そしてこれは、当事者である君たちの「主観」とは異なるし、もし適切な伝達がされていなければ誤解を生じることもある。コロナ禍の今だからこそ自身の情報リテラシーを高め、進路について悔いのない判断ができるよう切に願っている。

閉塞感のある今は近視眼的な状況に陥りやすいのだが、少しでも視線を上げ、少しでも未来を見据えて進路を考えてほしい。自分が決めたのだからという納得感を感じて自らが進路選択し将来に向けて進んでほしい。そして、進路で迷うことがあったときには、現在はメールでの対応が中心となっているが、専任教員に相談することができる進学情報センターのことを思い出してほしい。